

平成27年市政功労者を表彰



平成二十七年市政功労者に、安瀬正一さんなど四十七人・二団体の方々を決定し、その功績をたたえました。
敬称略、部門ごとに五十音順

自治・社会福祉功労

- ▽安瀬正一 常警水野谷町 行政嘱託員、保健委員
- ▽大竹貞雄 渡辺町田部 消防団員
- ▽岡田和則 平赤井 消防団員
- ▽金成正文 錦町 納税貯蓄組合長
- ▽草野一男 三和町渡戸 選挙管理委員会委員
- ▽榎田一男 沼部町 市長
- ▽佐久間均 中央台 市議会議員
- ▽西山トメヨ 四倉町玉山 交通教育専門員
- ▽根本寛 錦町 交通教育専門員
- ▽皆川永治 勿来町 消防団員
- ▽若林設備工業株式会社 大阪府大阪市中央区 寄附
- ▽石河弘 常警湯本町 流通業の振興
- ▽網代トシ子 中央台 保護司
- ▽阿部正敏 中岡町 学校薬剤師
- ▽飯島正敏 平 民生・児童委員
- ▽伊藤みよ子 内郷綴町 民生・児童委員
- ▽小宅八千代 中岡町 民生・児童委員
- ▽片寄和広 小名浜岡小名 保護司

教育文化功労

- ▽加藤愷弘 平 保護司
- ▽北郷志計子 植田町 民生・児童委員
- ▽草野新一 三和町下三坂 民生・児童委員
- ▽草野道子 中央台 学校医
- ▽小松実千江 常警関船町 民生・児童委員
- ▽齊藤和子 小名浜住吉 民生・児童委員
- ▽佐藤吉行 遠野町入遠野 民生・児童委員
- ▽志賀利彦 泉もえぎ台 保護司
- ▽篠原清美 好間町北好間 民生・児童委員
- ▽白石豊子 小名浜玉川町 保護司
- ▽菅波威 四倉町 学校医
- ▽鈴木武司 常警湯本町 民生・児童委員
- ▽鈴木博 内郷小島町 保健委員
- ▽鈴木正子 内郷御厩町 民生・児童委員
- ▽鈴木わか子 平 民生・児童委員
- ▽館野俊亮 遠野町大平

産業功労

- ▽鳥居敬子 勿来町 民生・児童委員
- ▽中野喜久男 平 保健委員
- ▽永山啓子 常警水野谷町 民生・児童委員
- ▽野口ミツ子 小名浜 民生・児童委員
- ▽橋本一雄 好間町北好間 保護司
- ▽長谷川淑子 四倉町 民生・児童委員
- ▽馬目成子 内郷御厩町 保護司
- ▽馬目岳夫 小名浜 学校医
- ▽三田仙芳 常警上矢田町 保護司
- ▽山口恵子 常警湯本町 民生・児童委員
- ▽湯澤日出子 内郷白水町 民生・児童委員
- ▽若松隆子 四倉町 保護司
- ▽若松剛 平南白土 保護司
- ▽和田保男 内郷御厩町 学校医
- ▽株式会社成田デンタル 千葉県千葉市美浜区 寄附

平成27年「海の日」海事関係功労者 国土交通大臣表彰

- 船員関係
 - ▷鈴木一彦(62) = 小名浜岡小名
 - ▷堀越儀勝(65) = 鹿島町船戸
 - ▷吉田忠正(72) = 若葉台
 多年にわたり、船員として職務に精励したことが評価されました。
※年齢は7月20日現在、50音順・敬称略。
- 海をきれいにするための一般協力者
 - ▷四倉地区保健委員会
 四倉海岸において、多年にわたり清掃活動を行い、海岸の環境美化に貢献してきたことが評価されました。

進んでいます いわきの復興 ⑰

小名浜港と市街地が直結～都市計画道路「平磐城線」が供用開始に（9/12）～

同路線は、平地区と小名浜地区を連絡する重要幹線道路であり、小名浜港背後地震災復興土地区画整理事業において、小名浜港と市街地が一体となった、まちづくりを実現するために整備するものです。

また、今回の供用開始は、片側1車線と右折レーンの3車線での暫定供用となりますが、今後は、片側2車線と右折レーンの5車線での本供用を目指して、工事を進めていきます。
▶延長 約160メートル
▶幅員 今回の暫定供用=約10メートル（本供用=約30メートル）



小名浜港背後地震災復興土地区画整理事業位置図



同路線の整備前（昨年8月撮影）



同路線の整備後（本年9月撮影）

こんにちは市長室から ⑦



市民の皆さんの安全・安心が最優先！

いわき市長 清水敏男

市長に就任して、9月28日で2年となりました。東日本大震災・原発事故を経験した本市にとって、市民の皆さんの安全・安心が最優先課題と考え、これまでさまざまな施策を講じています。

一つには、自主防災力を高めるため、本年度から防災士養成講座を実施し、86人の防災士が新たに誕生しました。今後も、市内の424の自主防災組織全てに配置できるよう、

継続実施していく予定です。
二つには、9月2日、国の放射線医学総合研究所のいわき出張所が、内郷支所に開設されました。これは、放射線が人体や環境に与える影響を心配する「放医研を誘致する会」の皆さんの、署名や国等への要望活動が大きな力となり、具体的になったものです。
三つには、9月24日、新潟市との間で災害時相互応援協定を締結しました。これは、太平洋岸に位置する本市と日本海岸に位置する新潟市が、大規模災害に同時に被災する可能性が低く、かつ、磐越自動車道でつながる雄都として、互いに連携するメリットが大きいと判断したことによるものです。
今後とも、安全・安心な「いわき市」を創ってまいります。